

2011/07/14

茨城大学東日本大震災調査報告書(平成 23 年 5 月 31 日発行)の正誤表

平成 23 年 5 月 31 日に発行した東日本大震災調査報告書は、茨城県における東日本大震災の実態と教訓に関する調査の速報をまとめたものです。短期間による調査に基づいておりますので、調査の進展によってデータや情報は修正される場合がございます。記述の一部に曖昧な箇所や誤りがありましたこととお詫びするとともに、その後の調査の進展やご指摘を踏まえた加筆や修正箇所を示します。

<3 章「茨城県における津波浸水被害調査」>

① 大洗における標高の数値について (図 3.4、 図 3.5)

図 3.4、図 3.5 などに表示されている標高値と、等高線 (国土地理院発行、10m メッシュ) による標高値が大きく異なっている地点が見られます。本調査の標高値は、人工衛星の電波を利用する GPS 測量によって得られた値であり、報告書では、調査地域内の相対的な高さの違いを議論するために、得られた値をそのまま示しました。GPS 測量では、衛星電波の受信状況や多数の地点のデータ処理を行うことに伴って誤差が生じる場合があります。図 3.4、図 3.5 などの中で等高線と大きく異なっている地点の標高にはこうした誤差が含まれている可能性があります。このこととお知らせし、以上をご了解の上、これらの図を参照下さいますようお願い致します。

本章を担当した調査チームは今後も調査研究を継続して参りますが、再測量を行ったり、誤差処理を見直したりした結果、修正すべき地点が明らかになり次第この正誤表にて随時改訂を行っていく予定です。

(東日本大震災調査団座長からのお詫び)

上記のように、大洗町における標高・浸水高の測量結果に誤差が含まれている可能性があります。これに対して、地域の皆様に正確なデータをお示しできていないことを深くお詫び申し上げます。

本調査団では、被災地にある大学として何とか地域に貢献したいと考え、調査に取り組んで参りました。とくに、早期の復旧・復興に向けて、調査の成果をなるべく早く示したいと考え、6 月 1 日に報告会を開催して報告書を配付致しました。この調査結果が地域の皆様に大変好意的に受け止められたことを、大変有り難く感じております。しかし、短期間の調査であったため、精度に欠けるデータや不正確な記述が含まれたことは申し訳なく思っております。そうした点は、正誤表で訂正を掲示して参りましたが、今後も、内容をチェックし、正確な形で成果を示していきたいと考えております。これからも調査に努力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

東日本大震災調査団座長
三村信男

<4 章「東海村豊岡地区における津波被害と対応」>

①p.37「4.4 水門をなぜ閉めることができなかったのか？：東海村豊岡地区の事例からの教訓」の記述を以下のように修正します。

(修正前)

2011年3月11日に発生した地震によって久慈川河口部に押し寄せた約4.7メートルの津波は、・・・

(修正後)

2011年3月11日に発生した地震によって久慈川河口部に押し寄せた津波（久慈川対岸の日立港なぎさ公園で浸水高4.2m¹⁾）は、・・・

②上記①の引用文献を追加します

都司ら(2011)「茨城・千葉での海岸津波高さ」, 東京大学地震研究所

http://outreach.eri.u-tokyo.ac.jp/eqvolc/201103_tohoku/tsunami/#tsunamiheight

<7 章「避難行動・被災生活」>

①p.66「これに対して、北茨城市はこれに対して、北茨城市は14時58分に5.4mの第1波が来たため、さらに緊急性が高かったと考えられる。」の一文を削除いたします。

北茨城市の津波の到達時刻と高さについては気象庁等による公式の観測記録がなく、目撃証言もまちまちでした。津波の状況は今後も調査を継続していきます。

なお、気象庁「平成23年3月 地震・火山月報（防災編）」等に津波の観測記録が掲載されています。

http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/gaikyo/monthly201103/20110311_tohoku_2.pdf

<8 章「社会的影響」>

p.81 8.2.2

(修正前) 義捐金

(修正後) 義援金